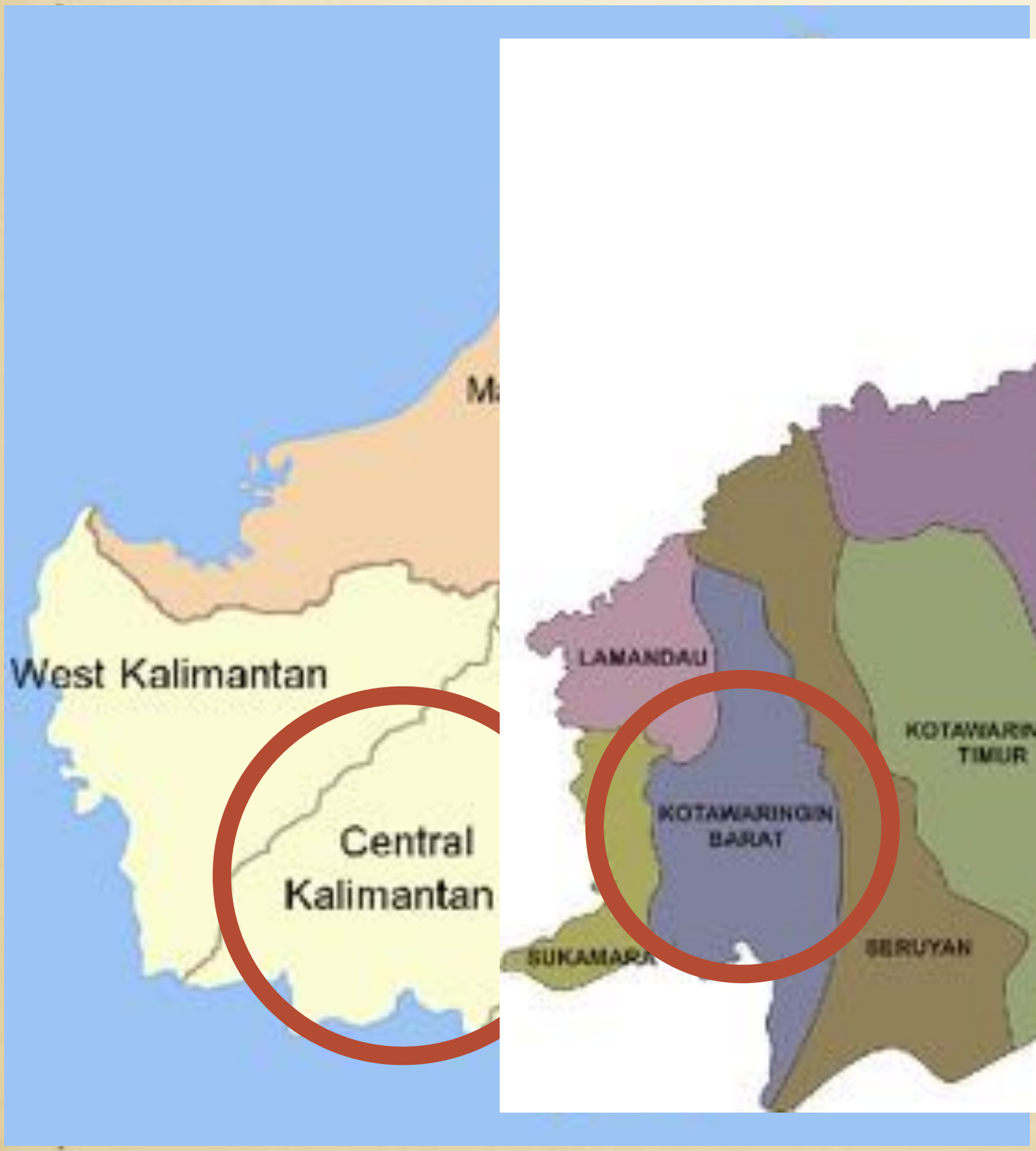
「スポット植林」による
生態系回復とフォレスター育成
～火災で失われた泥炭湿地林を
いつかふたたび！男たちの挑戦～

2017年10月9日

豊中国際交流センター
ウータン・森と生活を考える会　近藤美沙子

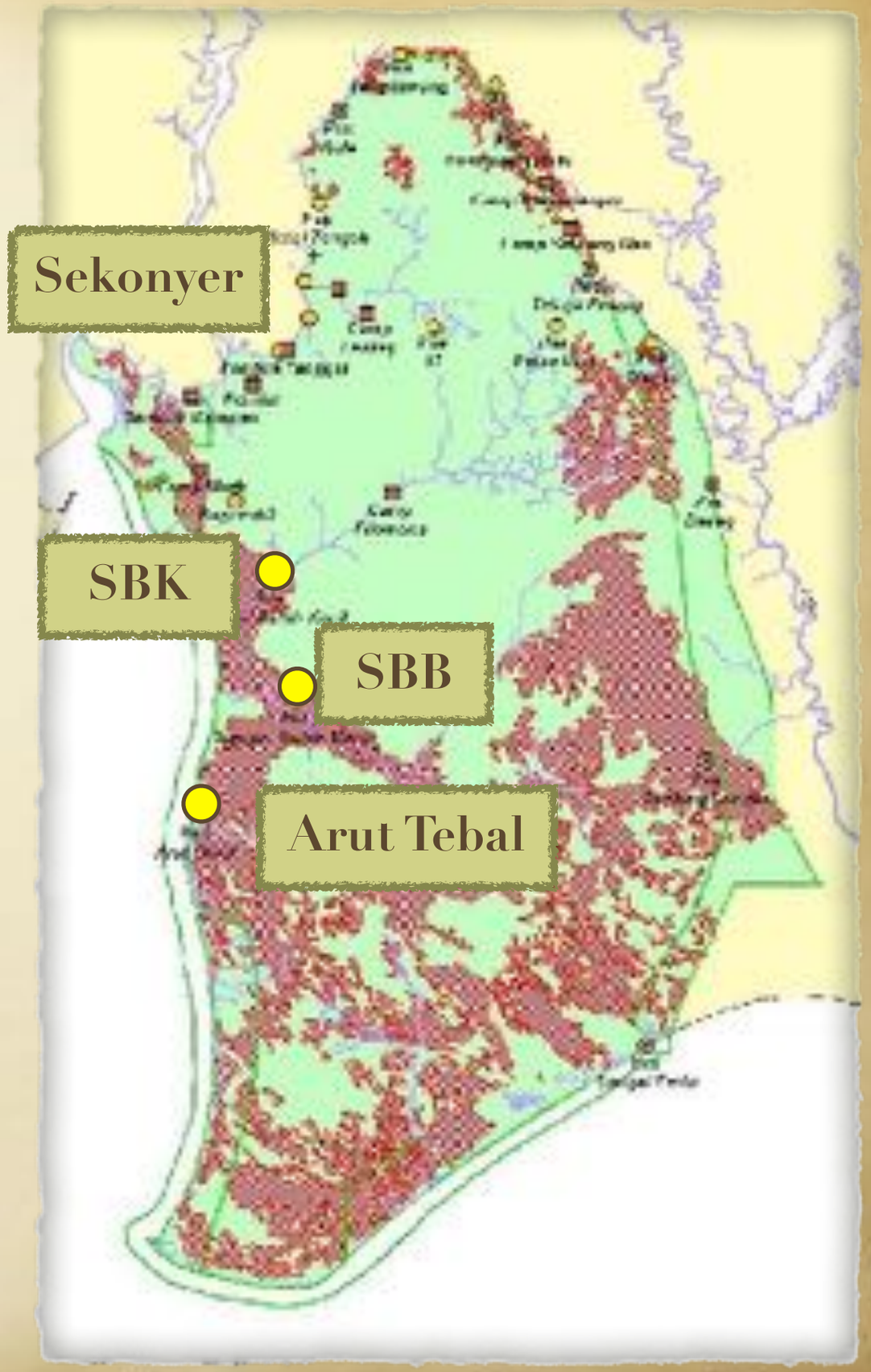
タンジュン・プティ

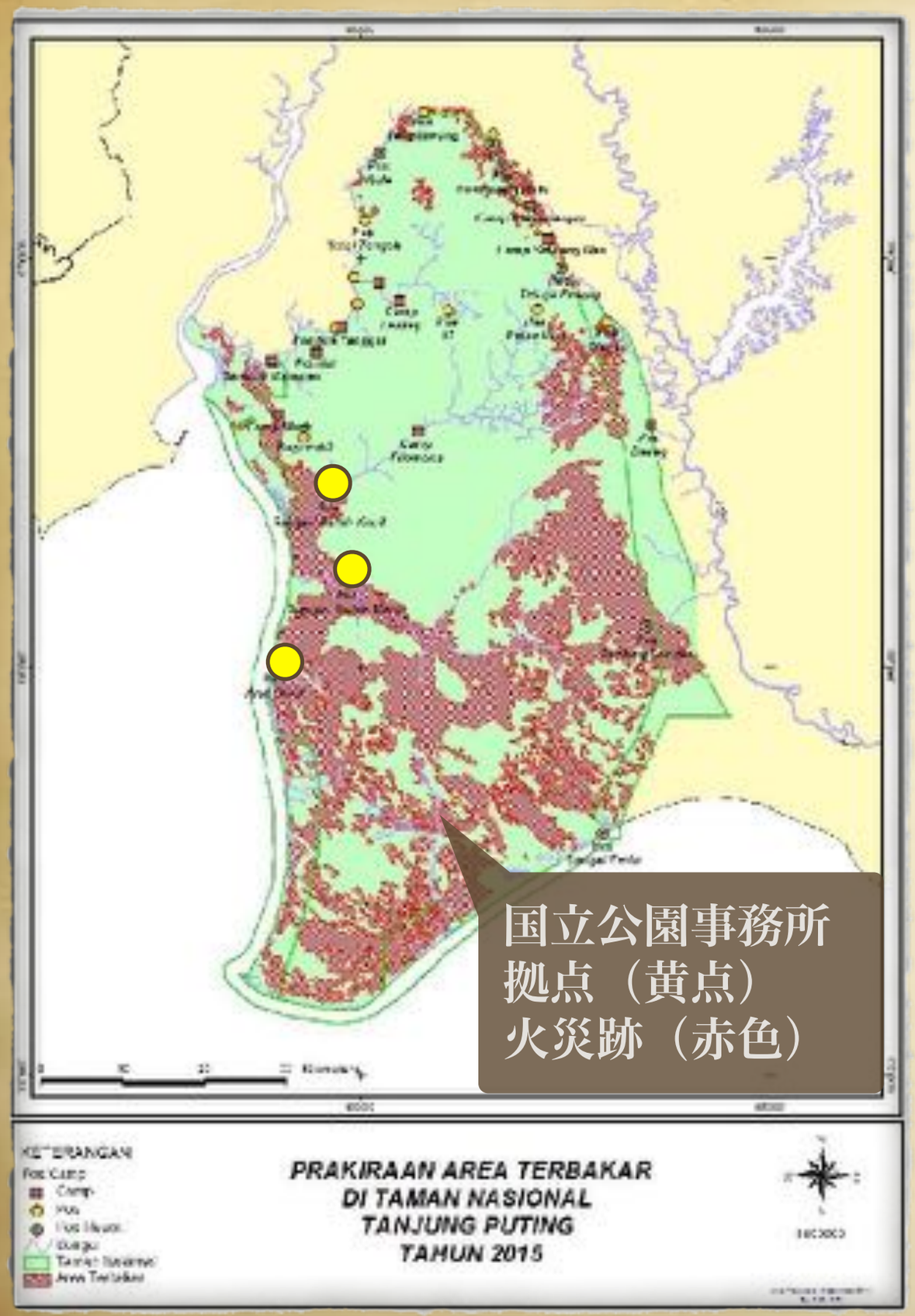

West Kalimantan
Central
Kalimantan
LAMANDAU
KOTAWARINGIN
BARAT
KOTAWARINGIN
TIMUR
SERUYAN
SUKAMARA

KAB.
SERUYAN
KAB.
LAMANDAU
KAB.
SUKAMARA

Sekonyer

Arut Tebal


Sekonyer
SBK
SBB
Arut Tebal



2015年TNTP火災跡地
植林ではなく回復を！

・2006年にも火災
＝深い泥炭層の喪失
・6万ha火災跡地
・従来の手法
（広大な面積を埋尽くす植樹）
＝効率が悪く、莫大な予算が必要

⇒自然の力を活用するデザイン

× ReForestation/ReHabilitation
○ ReStoration

森林回復のためのステップ

（1）土地の回復・改善

土壌流出を防ぐための土木工学の技術を応用

（2）適した樹種の選定

試験植樹とそのモニタリング

（3）再植林の実施

土壌流出を防ぐ種＋在来種であることに注目

スポット植林の仕掛け人：バスキさん

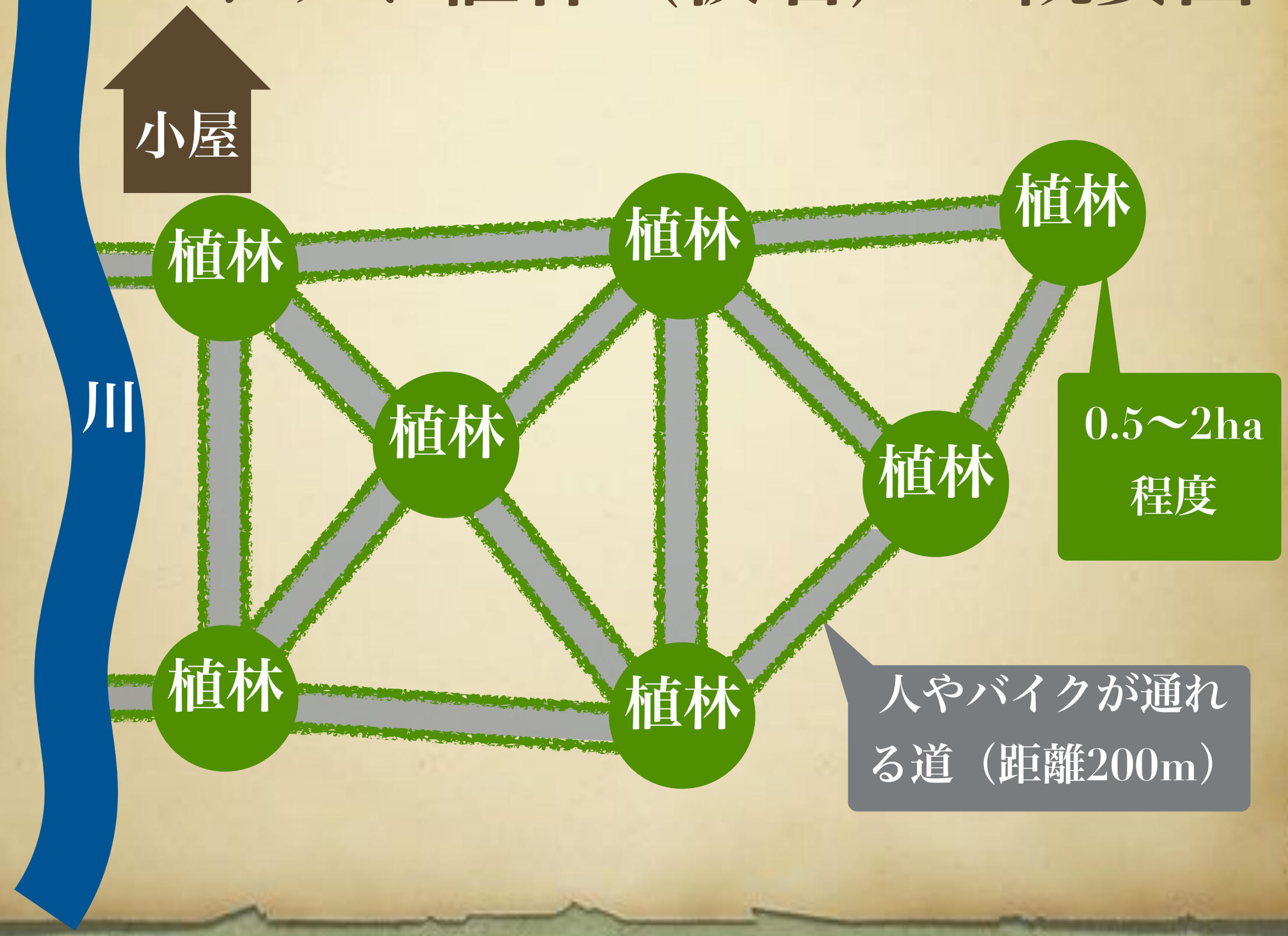
SBB: スンガイ・ブル・ブサール（2017年2月ドローン撮影）

スポット植林の現場①SBB（2017年5月）

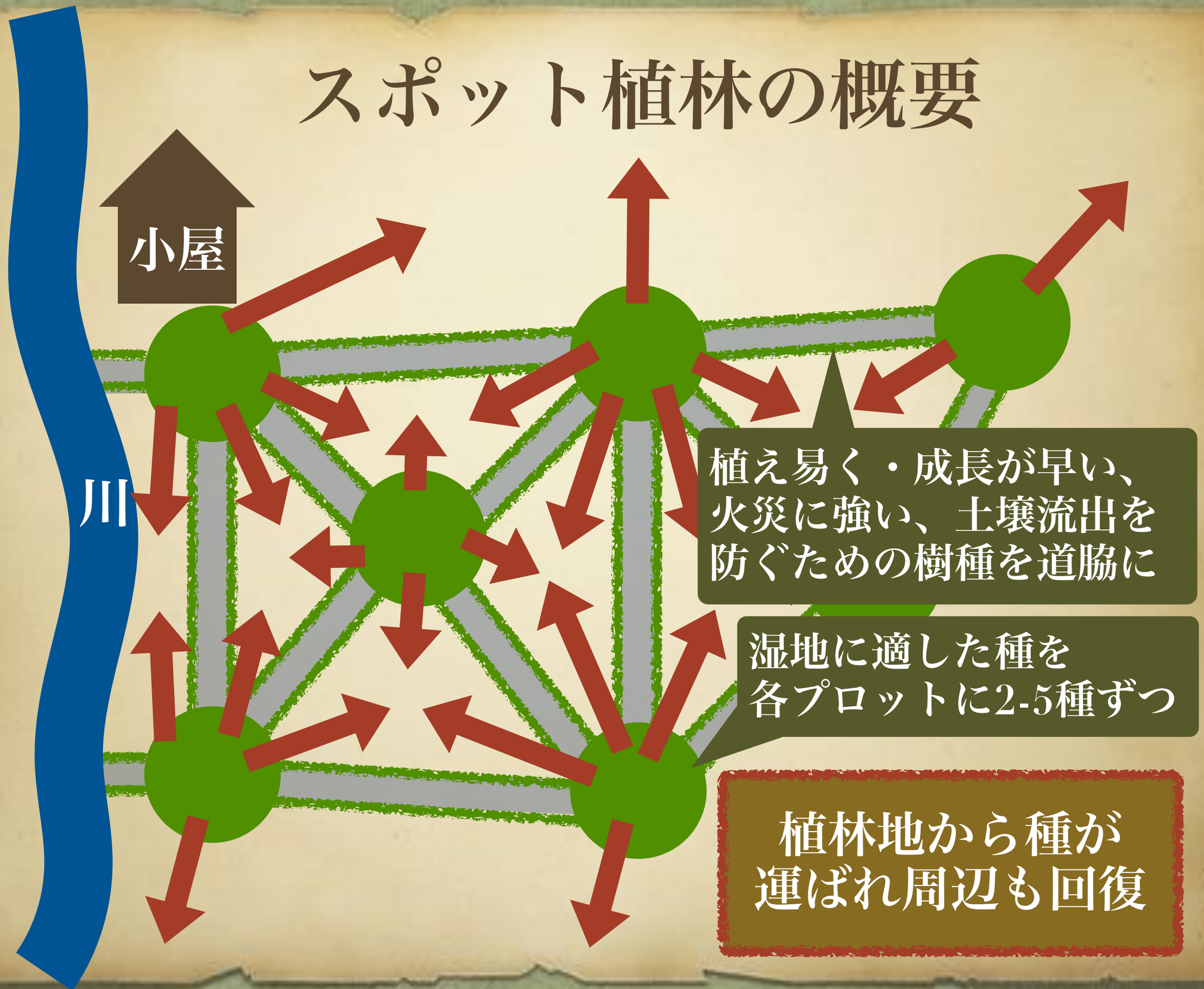
スポット植林の現場②Arut Tebal（2017年7月）

広大な土地での植林、どうしたら？

スポット植林（仮名）の概要図



スポット植林の概要


小屋
川
植え易く・成長が早い、
火災に強い、土壌流出を
防ぐための樹種を道脇に
湿地に適した種を
各プロットに2-5種ずつ
植林地から種が
運ばれ周辺も回復

おまけ：エンリッチメント

スポット植林の意義

（1）植林をより安く、やり易く！

・いくら資金があっても足りない植林プロジェクトの予算削減＆効率化

・従来の植樹方法ではスタート地点から遠い所の作業が雑になる＝費用対効果▽

⇒作業がしやすく・成功率の上がる植林方法

2017年5月・作業風景

トランスロケーション実験（20cm-1m+苗）

2017年9月モニタリング@SBB

冠水しても高い生存率！

スポット植林の現場②AT（2017年9月）

”ポット丸植え”で
冠水しても大丈夫！

スポット植林の意義

（２）植樹法の実験＆人材育成

多様な植樹法の実験

ポット丸植え、トランスロケーション、挿し木、取り木、冠水状態での植樹、下草踏み倒し植樹

人材育成＝若手フォレスター

やる気のある若い層に植林テクニック・データ採取方法・プロジェクトの組み立て方などを伝授

スポット植林の意義

（３）国立公園事務所内でのボトムアップ

現場スタッフ（若手フォレスター）の育成により

リゾート（駐在所）・ベースの公園マネジメントを！

ありがとう
ございました